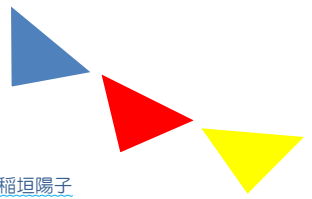




8がつ ほけんだより

令和4(2022)年8月号 わかばこども園 稲垣陽子



いよいよ夏本番です。旅行など、この時期ならではの計画をされているご家庭もあることでしょう。

一方で、新型コロナウイルス感染症をはじめ、様々な感染症の流行が見られます。体調に気を付けて暑い時期を元気に乗り切りましょう。

8月の保健行事

1(月) ほけんの話(みかん・いちご)

2~5(火~金) 身体測定



虫さされも多くなる季節です

虫の活動も活発な時期です。アウトドアでは長袖・長ズボンを着用するなど、虫刺されにご注意ください。

■ 受診すべきかの判断



- ・かゆみや痛みがひどい
- ・市販の薬を使用し、5~6日程度経っても症状がよくなるしない
- ・とびひのようにになっている、ただれている。
- ・症状の重症化(じんましんや呼吸困難、意識がなくなるなどの全身症状)

■ 応急手当の方法

蚊 : 冷やす

大人の場合と違い、小さな子どもは腫れがひどくなることが多いです。

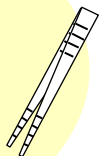
腫れは虫の唾液腺物質に対するアレルギー反応です。大人に比べ、まだ刺された経験が少ない子どもは症状が重くなりやすいです。患部を冷やすと一時的に腫れやかゆみが抑えられます。



ハチ : 針は抜く

ハチの針が刺さったままだと、体の中に毒が入り込みます。

針は、手でなくピンセットなどで丁寧に抜きます。(手で抜こうとして針を体の中に押し込んでしまい、体の中に毒をより注入してしまう恐れがあります)。



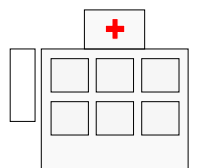
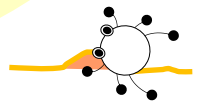
マダニ : 無理に取らないで、必ず受診を!

山の中だけでなく、街なかの茂み・公園の草むらなどにもいることもあるそうです。葉に隠れていて、ヒトや動物が来ると、皮膚にしっかりと口を突き刺し、数日(長いと10日間以上)吸血します。

成虫のマダニでは吸血前で3~8mm、吸血して満腹になると膨らんで10~20mmにもなります

皮膚についているマダニに気付いた際、無理に取ろうとしてはいけません。マダニの一部が皮膚に残ったり、マダニの体液を注入させたりする恐れがあります。マダニは必ず皮膚科で除去、洗浄などをしてもらいましょう。

また、咬まれた後数週間は体調の変化に注意し、発熱等の症状が出た場合は医療機関を受診します。



必ず病院へ!

予防接種の受けもれはありませんか?



母子手帳を開いてご確認のうえ、受けそびれているものがあれば接種しましょう。



1歳半になったらそろそろ…4種混合(DPT・ポリオ)、水痘追加

3歳になったらそろそろ…日本脳炎1期



3歳~7歳半が接種時期です。2回受けます。

4歳になったらそろそろ…日本脳炎の追加



最初に1期を受けてから1年後に、もう一度追加接種があります。

5歳児クラスになったら…麻しん・風しん(MR)



小学校に上がる前(5歳児クラスの時期)にMR2期があります。2期は忘れがちで、接種率が低めです。うみ・そら・たいようぐみは、卒園までに接種しましょう。